



# 開封・戦後日本の印刷広告

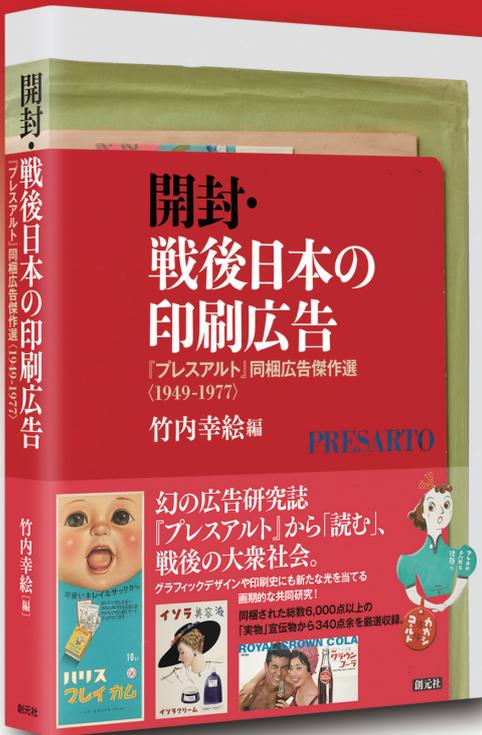
『プレスアート』同梱広告傑作選  
〈1949-1977〉

竹内幸絵 編



ポスター・パッケージ等の「実物」の広告・宣伝印刷物を綴じ込み、批評冊子とともに頒布されていた幻の会員制広告研究誌『プレスアート』。この他に類を見ないユニークな広告雑誌を、バラエティ豊かな12のテーマに沿って解剖し、関西を中心とした戦後の広告文化史とグラビア印刷史に新たな光を当てる!

- 『プレスアート』に同梱された総数6000点以上の戦後の「実物」宣伝物のうち、厳選した340点余を新規に撮り下ろして収録。
- テーマごとに戦後の広告文化の有り様を論じるとともに、各図版にも掲載号・仕様データを記載、詳細な解説を施した。



創元社

B5判上製・240頁(オールカラー)  
2020年3月刊行予定  
定価(本体4,500円+税)



〈組見本 (30%に縮小)〉

〈編者略歴〉

竹内幸絵 (たけうち ゆきえ)

大阪府生まれ。神戸大学大学院国際化学研究科修了。博士(学術)。専攻は広告史、デザイン史、歴史社会学。サントリーミュージアム[天保山]学芸員を経て、現在同志社大学社会学部メディア学科教授。著書に『近代広告の誕生—ポスターがニューメディアだった頃』(青土社、2011年)、編著書に『広告の夜明け—大阪・萬年社コレクション研究』(難波功士との共編、思文閣、2018年)、共著に『東京オリンピックイベントとしての赤と白の色彩』(朴順愛 他編『大衆文化とナショナリズム』、森話社、2016年)など。

1937(昭和12)年に京都の古書店主にしてエスペランティストの脇清吉が創設した「プレスアート研究会」の会員誌として、少数の会員のみにも頒布されていた『プレスアート』は、多くの広告制作者、グラフィックデザイナーたちにとっての貴重な資料であり、次の創作への大きな刺激となった。本書は、その戦後刊行分を対象に行った共同研究の成果を多数の図版資料とともに示し、戦後広告史に多角的に光を当てたビジュアル学術資料集である。



華やかな化粧品パッケージなども収録

第1部◎『プレスアート』とは何か

- 第1章❖「プレスアート」というタイムカプセル (竹内幸絵/同志社大学教授)
- 第2章❖脇清吉論 (松實輝彦/名古屋芸術大学准教授)
- 第3章❖印刷雑誌としての『プレスアート』 (寺本美奈子/キュレーター)

第2部◎『プレスアート』から見る戦後の大衆社会

- 第4章❖『プレスアート』推奨の観光ガイドブックを開く (松實輝彦)
- 第5章❖医薬品—病気と健康のあいだに (佐藤守弘/京都精華大学教授)
- 第6章❖食をめぐる洋風・栄養・広告 (熊倉一紗/京都造形芸術大学講師)
- 第7章❖百貨店という文化装置の戦後 (竹内幸絵)
- 第8章❖「家電王国」大阪 (植木啓子/大阪中之島美術館準備室)
- 第9章❖「白物家電」広告とハッピーホームの「主婦」たち (村瀬敬子/佛教大学准教授)
- 第10章❖化粧品広告デザインの多様性 (石田あゆみ/桃山学院大学教授)
- 第11章❖大阪労音の時代 (輪島裕介/大阪大学准教授)
- 第12章❖華やかな繊維時代と広告表現 (北廣麻貴/大阪中之島美術館準備室)

創元社

<https://sogensha.co.jp/>

【本社】 大阪市中央区淡路町4-3-6 TEL (06) 6231-9010(代) FAX (06) 6233-3111  
 【東京支店】 東京都千代田区神田神保町1-2 田辺ビル TEL 03-6811-0662

〈キリトリ線〉

創元社申込書		この注文書にて最寄りの書店へお申し込みください。書店ご不便の場合は直送もいたします。	
開封・戦後日本の印刷広告		『プレスアート』同梱広告傑作選	竹内幸絵 編
ISBN978-4-422-21019-3 C3021		定価(本体4,500円+税)	
〒	一	冊 申し込みます	
ご住所	フリガナ	取り扱い店名	
お名前	TEL ( ) ー		